

したが発見出来なかった。其の後、木戸の瀬迄上り、夜な夜な光り物となる。人恐れて此の瀬を渡る者なし。惟勝龍護寺参詣の為此の瀬を渡る時、水底がしきりに光ったので、人を入れて捜がさせたら脇指があった。先年、釜門で失ったもので、蟻がらがついていたが少しもさびず、もとの通りに光っていた。こんな話が言い伝えられ信ぜられた良い時代であった。

現在でも梅雨時、台風時に大雨が降ると、木戸の瀬川は忽ち本流となって、山裾を洗って流れる。

再言する。木戸城は城郭ではなく聖域であった。



表紙解説

修験の磨崖仏楮本

宇佐郡安心院町

向って中央よりやや左上部に「応永三十五年」の墨書銘がかすかに読みとれる。約五百七十年の長い歲月風雨にさらされ消えなかった。

昔は照葉樹林に秘匿され、陽の目も見ない幽玄の地であり、また、密教寺の修法祈禱場、異様な磨崖仏群像周辺の人達もあまり近づかなかったのではなかったか。

写真は、ほぼ中央に見られる不動明王。

写真並びに説明 軸丸 勇